

山賊ワイルドラン&炎の宴 (10月5日)



西紀北・中地区で開催された「山賊ワイルドラン&炎の宴」には過去最多の70人が参加しました。コースは全長26km。雨の中、「想像以上にきつかった」との声もありましたが、参加者は市内の魅力を感じながら楽しんでコースを走りました。

※当日の様子は後日、農林水産省公式YouTubeで公開予定。

中央図書館入館者300万人 (10月5日)



開館から22年を迎えた中央図書館の入館者が300万人を突破しました。記念すべき300万人目の入館者は、城北畑小学校2年生の春木梨綸さん。春木さんは実験や植物の本をよく借りに来られ、「理科とかの本がいっぱいあるところが好き」と笑顔で話しました。



美しい農村を未来へつなぐツアー (9月9日・10日)

市が実施する環境保全活動を大学生などに見学・体験してもらう「丹波篠山市・美しい農村を未来へつなぐツアー」に近畿大学農学部の学生43人が参加しました。川に生息する生きもののモニタリング調査や市職員による環境保全事業の説明、河合雅雄顕彰室「万兎の部屋」の見学などを通して、市が取り組むまちづくりや環境保全の活動、生物多様性の重要性を学ぶ機会となりました。



きょうもまふいぬ! 113



県茶品評会で諏訪園が最優秀賞 (9月9日)



兵庫県内で生産された茶の品質を競う「第65回兵庫県茶品評会」(荒茶部門)において、株式会社諏訪園(酒井一行代表取締役)が最優秀の農林水産大臣賞を授賞されました。

品評会は生産や加工技術を向上させようと、毎年開催されており、今年は市内からの11点を含む36点が出品され、茶葉の外観や香り、味などを200店満点で審査。審査の結果、諏訪園のお茶は満点で、2年ぶり4度目の受賞となりました。

酒井代表は「今年は4月に雨が少なく、葉の水分が少なめでしたので、蒸し方を強くすることで、よいお茶に仕上げることができました」と栽培の苦労を話されます。

全国の品評会にも出品し、京都の宇治や静岡などの茶の生産者と交流を深め、勉強を重ねられている酒井代表。「丹波篠山のお茶には1200年の歴史があり、全国のどのお茶にも負けない味わいがあります。おいしいお茶とよばれるように今後もがんばっていき」と力を込めて話されました。

市内の受賞者は次のとおり(敬称略)。
近畿農政局長賞=酒井一行 地域優良賞=波多野ふみ子

ご長寿お祝い訪問 (9月22日)



3月に102歳を迎えた吉田慶次郎さんのもとへ、丹波篠山市長と社会福祉協議会副会長の山崎義博さんが長寿を祝って訪問し、記念品などが手渡されました。独学で英語を学ぶなど勉学に励まれた吉田さん。仲の良い奥様と共に、温かく迎えていただきました。

火災から市民を守るために (9月7日)



大沢で行われた木造建築物密集地火災防ぎよ合同訓練。この訓練では市民や関連機関との連携の向上を目的としています。弁天自治会、篠山警察署、丹波篠山市消防団および丹波篠山市消防本部が参加し、それぞれの役割を再確認する機会となりました。

畑まつり (10月4日・5日)



佐佐婆神社(畑宮)で篠山三大祭りのひとつ「畑まつり」があり、山車やみこしの渡御が行われました。本宮の5日には流鏝馬神事が奉納。騎馬童男役は城北畑小4年の小林巧実さんが努め、3カ所で3本ずつ矢を放ち、見事全て命中させました。

丹波栗の収穫が最盛期 (9月24日)



秋の味覚、丹波栗が収穫シーズンを迎えました。新庄地区の生産者14人でつくる栗園「愛郷会新庄村」では、代表品種の「銀寄」や「筑波」「ぼろたん」など、約10種類、約220本の栗の木が植えられています。この日は、村長の倉垣利明さんが、落果して実が顔を見せているイガ栗を、火ばさみで拾っては袋へ詰め込んでいきました。

★詳しくは、19ページをご覧ください。